

2022 年度事業報告書

(2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

2022 年度 活動テーマ

**三位一体のデザイン型共創社会にむけたアクション
—Innovation のつぼみを膨らませよう—**

今年度は、上記活動テーマのもと以下の内容を中心に活動を行った。

1. 将来をデザインし、共に創る「デザイン型共創社会」において、ヒーブがリーダーとして発信していくことを意識しながら活動した。ヒーブ Innovation シリーズでの連続公開講演会など適宜公開講演会を開催し、東京・関西・九州の一体感醸成と協議会の認知度向上に寄与した。
2. 研究会推進グループは、活動テーマや会員ニーズを反映した月例研究会を企画・運営した。会員の能力・資質向上とネットワーク醸成を目的に、公開講演会(4回)、セミ講演会(7回)、会員交流会(1回)等を実施した。
3. 組織の活性化を図るグループは、会員同士の交流活性化に向けた活動、会員交代や退会された会員のフォローを行った。
4. 広報グループは、ホームページの更新を行い、協議会の価値・認知度を高めるため、定例活動、講演活動、表彰・マスコミ掲載等を、ホームページやプレスリリースツール等を活用し効果的に発信した。1年間の活動については、広報誌「レポートヒーブ」に取りまとめ、会員企業へのフィードバックをはじめ、協議会の認知度向上や会員拡大に向けた情報発信に寄与した。
5. 調査グループは、「調査・生活者関連情報分科会」をマネジメントし、デザイン型共創社会に向けてヒーブの更なる実践力アップのための冊子のバージョンアップを行った。この冊子制作にあたり、ヒーブ自身がチャレンジ実践してきた事例を考察し、「本音で共創」するための組織・チームづくりのヒント集としてまとめ作業を実施。同時に、分科会の運営も「本音で共創」することを念頭において自らチャレンジ実践の場とし、その効果を確認した。
6. 関西支部は、支部主催の例会や依頼を受けた講義・講師派遣の場において、対面の機会を創出し、会員交流の活性化を図った。活動を通じて、消費者関連団体の存在意義や生活者視点でイノベーションを起こすことを自分ごと化し、所属企業において各会員が実践に努めた。
7. 九州支部は、ヒーブ視点と支部の強みを基に地域に視点を当てた公開講演会を開催し、会員の資質向上と九州支部の知名度向上に努めた。
8. 行政の委員会や会議、自治体・大学での講演について、理事を中心に積極的に派遣した。(計 31 回)
9. 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、Web 会議サービス (Zoom) を用い、オンラインで理事会開催および月例研究会等の運営を行った。
10. 事務局については、人員を 2 名体制とし、会員活動を充実させるべく最適化を図った。

年間テーマにもとづいて月例研究会・分科会を開催し、会員が協議会の運営や研究活動に主体的に携わることで、東京・関西・九州が一体感を持って活動することができた。

2022 年度代表理事 中村 尚美

I. 2022 年度事業実績

【グループ活動（東京本部）】

1. 企画グループ

代表理事の諮問機関として、協議会運営が円滑かつ効果的に行われるよう努めるとともに、行政・他団体等と積極的な情報交換を行い、協議会の活動を社会にアピールした。

(1) 理事会の開催

Web 会議サービス (Zoom) を用いて開催し、出席者の音声即時に他の出席者に伝わることを確認し、議事に入った。

理事会	4 月 15 日 (金)	5 月 12 日 (木)	6 月 10 日 (水)
	7 月 5 日 (火)	7 月 22 日 (金)	8 月 10 日 (水)
	9 月 6 日 (火)	10 月 7 日 (金)	11 月 4 日 (金)
	12 月 6 日 (火)	1 月 13 日 (金)	2 月 7 日 (火)
	3 月 8 日 (水)	3 月 27 日 (月)	
準備理事会	3 月 17 日 (金)	4 月 6 日 (木)	

(2) 生活者・企業・関連団体等への情報発信

協議会が作成した冊子等を活用し、生活者・企業・行政の目指すべき方向性や具体アクションについて、講演会や HP 等を通じ情報発信を行った。

(3) 行政・関連団体等が主催する行事への参画

以下のとおり、行政の委員会や会議、関連団体のシンポジウム等へ、理事・監事が中心に参画した。

実施日	内容	主催	エリア	出席者
4 月 14 日 (木)	第 8 回消費者問題調査会	自民党政調会	東京	代表理事 中村尚美
4 月 21 日 (木)	第 9 回消費者志向経営に関する連絡会	消費者庁	東京 オンライン	代表理事 中村尚美 副代表理事 鈴木聖子 副代表理事 影田明日香
5 月 12 日 (木)	第 9 回消費者問題調査会	自民党政調会	東京	副代表理事 鈴木聖子
5 月 19 日 (木)	第 10 回消費者志向経営に関する連絡会	消費者庁	東京 オンライン	代表理事 中村尚美 副代表理事 鈴木聖子
6 月 16 日 (木)	第 11 回消費者志向経営に関する連絡会	消費者庁	東京 オンライン	副代表理事 鈴木聖子 副代表理事 影田明日香
6 月 22 日 (水)	男女共同参画推進会議	内閣府男女共同参画室	東京 オンライン	代表理事 中村尚美
6 月 28 日 (火)	消費者志向経営の推進に関する有識者検討会	消費者庁	東京 オンライン	代表理事 中村尚美 副代表理事 鈴木聖子
7 月 6 日 (水)	第 10 回消費者問題調査会	自民党政調会	東京	副代表理事 鈴木聖子
7 月 20 日 (水)	消費者志向経営の推進に関する有識者検討会	消費者庁	東京 オンライン	代表理事 中村尚美 副代表理事 鈴木聖子 副代表理事 影田明日香
7 月 21 日 (木)	第 12 回消費者志向経営に関する連絡会	消費者庁	東京 オンライン	代表理事 中村尚美 副代表理事 鈴木聖子 副代表理事 影田明日香

実施日	内容	主催	エリア	出席者
7月21日(木)	第25回神戸市消費生活会議	神戸市消費生活センター	関西	関西支部長 辻美智子
7月22日(金)	第5期消費者教育推進会議	消費者庁	東京	特別会員 宮木由貴子
9月8日(木)	第11回消費者問題調査会	自民党政調会	東京	副代表理事 鈴木聖子
9月15日(木)	第13回消費者志向経営に関する連絡会	消費者庁	東京 オンライン	代表理事 中村尚美 副代表理事 鈴木聖子
10月11日(火)	第75回神戸市消費者苦情処理審議会	神戸市消費生活センター	関西	関西支部長 辻美智子
10月20日(木)	第14回消費者志向経営に関する連絡会	消費者庁	東京 オンライン	副代表理事 鈴木聖子
10月28日(金)	第33回消費者教育推進会議	消費者庁	東京	特別会員 宮木由貴子
11月11日(金)	2022 公開シンポジウム	(公社)全国消費生活相談員協会	東京	代表理事 中村尚美 副代表理事 鈴木聖子 理事 小林あさひ
11月14日(月)	男女共同参画推進会議	内閣府男女共同参画室	東京 オンライン	代表理事 中村尚美
11月17日(木)	第15回消費者志向経営に関する連絡会	消費者庁	東京 オンライン	代表理事 中村尚美 副代表理事 鈴木聖子
12月16日(金)	第16回消費者志向経営に関する連絡会	消費者庁	東京 オンライン	副代表理事 鈴木聖子
1月16日(月)	第17回消費者志向経営に関する連絡会	消費者庁	東京 オンライン	代表理事 中村尚美 副代表理事 鈴木聖子
1月19日(木)	2023年ACAP新春講演会(東京)	ACAP	東京 オンライン	代表理事 中村尚美
1月24日(火)	2023年ACAP新春講演会(大阪)	ACAP 関西	大阪 オンライン	代表理事 中村尚美 関西支部長 辻美智子
1月31日(火)	第12回消費者問題調査会	自民党政調会	東京	副代表理事 鈴木聖子
2月3日(金)	第13回消費者問題調査会	自民党政調会	東京	副代表理事 鈴木聖子
2月8日(水)	第14回消費者問題調査会	自民党政調会	東京	代表理事 中村尚美
2月16日(木)	第18回消費者志向経営に関する連絡会	消費者庁	東京 オンライン	代表理事 中村尚美 副代表理事 鈴木聖子
2月27日(月)	第34回消費者教育推進会議	消費者庁	東京	特別会員 宮木由貴子
3月28日(火)	第76回神戸市消費者苦情処理審議会	神戸市消費生活センター	関西	関西支部長 辻美智子
2022年3月～	第2弾マイナポイント 審査委員会	総務省 キャッシュレス推進協議会	東京	—

(4)行政機関との連携

- ・消費者庁とは、消費者志向経営推進組織メンバーとしての活動、東京の月例研究会における消費者白書の解説(消費者調査課)ならびに消費者基本計画の解説(消費者政策課)、消費者教育推進会議への会員派遣等、継続的な連携を行っている。
- ・内閣府とは、男女共同参画推進連携会議議員として参画し、連携を深めている。
- ・経済産業省とは、キャッシュレス推進協議会への理事派遣を行っている。

(5)税理士訪問・相談

10月31日、3月16日に染谷税理士を訪問し、会計および事業活動の進捗状況を報告し、会計の適正運用について確認・相談を実施した。

2. 研究会推進グループ

会員の能力・資質の向上およびネットワーク醸成に向け、以下の取り組みを通じて会員の積極的な参画意識を高め、協議会活動のメリットを実感するとともに、会員相互のコミュニケーション強化・支援を図った。

(1) 2022 年度(第 20 回)総会・公開講演会・情報交換会の運営

新体制での新たなスタートを迎えるべく、会員や会員上司・同僚、行政等の方々をお迎えし、公開講演会を行った。情報交換会については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、開催を中止した。

<公開講演会>

開催日：4 月 15 日(金)

会 場：明治安田生命丸の内MYPLAZA会議室

司 会：簗島ゆう子 森永乳業(株)

参加者：公開講演会 86 名

テーマ：「パーパス」の実現からみる、だれもが自分らしく幸せに暮らせる社会を目指して

講 師：一橋ビジネススクール 客員教授 名和高司氏

総会については、【グループ活動】 3. 組織の活性化を図るグループ(1)を参照。

(2) 月例研究会の運営

- ・活動テーマにもとづき、①公開講演会（7 月・9 月・10 月・11 月）②セミ講演会（6 月・8 月・9 月・12 月・1 月・2 月・3 月）③会員交流（5 月）等のテーマを選定し、会員ニーズを反映しながら講演内容の充実を図った。
- ・コロナ禍にともない、会場と Web 会議サービス (Zoom) を用いたハイブリッド形式での月例研究会を運営した。
- ・協議会活動への周知を目的とし、一般の方も参加できる公開講演会を適宜実施した。
- ・会員間の情報共有を目的とし、分科会持ち回りで月例研究会のレポートを作成し、ホームページで発信した。
- ・会員間の情報共有を目的とし、講演会・分科会活動の動画を撮影し、YouTube にて配信した。

【月例研究会詳細】

No.	実施日・会場	主催	名称	講演テーマ・講師	出席者数
1	5 月 17 日(火) オンライン (Zoom) 明治安田生命保険(相) MYPLAZA 会議室	東京	5 月度 月例研究会	◆2022 年度分科会説明 ◆実践 BOOK 会員向け説明/会員交流会	活動紹介 31 名 会員交流 35 名
2	6 月 21 日(火) オンライン (Zoom) 明治安田生命保険(相) MYPLAZA 会議室	東京	6 月度 月例研究会	◇わいわいタイム ◆分科会活動 キックオフミーティング ◆セミ公開講座 ①「消費者基本計画」について 講師:消費者庁消費者政策課長 吉田 恭子氏 ②「令和 3 年版消費者白書」について 講師:消費者庁参事官 (調査研究・国際担当) 小島 宗一郎氏	分科会 35 名 講座 67 名
3	7 月 26 日(火) オンライン (Zoom) 明治安田生命保険(相) MYPLAZA 会議室	東京	7 月度 月例研究会	◆公開講座 ①「本音で共創する組織づくりにむけて」 講師:住友生命保険相互会社 執行役常務 香山 真 氏 ②進化する実践 BOOK『本音で共創する組織(チーム)づくりへの挑戦』の紹介～なぜ作ったのか、どう使うか～ 講師:サンスター(株)経営情報部調査担当部長 脇田 真知 氏 (日本ヒーブ協議会理事)	講座 100 名

No.	実施日・会場	主催	名称	講演テーマ・講師	出席者数
				③心理的安全性のある組織づくりの企業における実践 講師:住友生命保険相互会社 お客さま本位推進部 タスクフォースマネージャー 須之内 たか美 氏(日本ヒーブ協議会会員)	
4	8月22日(月) オンライン(Zoom) 明治安田生命保険(相) MYPLAZA 会議室	九州	8月度 月例研究会	◇わいわいタイム ◆分科会活動 ◆セミ公開講座 ①Rethink ローカル SDGs～あなたの未来を” 地域 “という視点で探求～ 講師:株式会社シンク・オブ・アザーズ代表取締役 難波 裕扶子 氏(日本ヒーブ協議会九州支部 長) ②エフコープの地域連携 講師:エフコープ生活協同組合事業企画部 部長 麻生 祥子 氏 (日本ヒーブ協議会 九州支部正会員企業)	分科会 34名 講座 39名
5	9月9日(金) オンライン(Zoom) 明治安田生命保険(相) MYPLAZA 会議室	東京	9月度 月例研究会	◆公開講座 ①生活者と新しい価値を共に創る 講師:武蔵野美術大学クリエイティブイノベー ション学科教授 岩寄 博論 氏 ②「ファンと共に未来を創る『ファンベース』の 観点から 講師:ファンベースカンパニー ディレクター 田口 彩人 氏	講座 74名
6	9月27日(火) オンライン(Zoom) OMM(旧:大阪マーチャング イズ・マートビル) 明治安田生命保険(相) MYPLAZA 会議室	関西	9月度 月例研究会 (ACAP 西日 本支部合 同)	◆セミ公開講座 「性的役割って何やるねえ?ーヒトの場合・動物 の場合」 講師:元神戸市立王子動物園副園長 みみ動物病院獣医師 花木 久実子 氏	20名
7	10月18日(火) オンライン(Zoom) 明治安田生命保険(相) MYPLAZA 会議室	東京	10月度 月例研究会	◇わいわいタイム ◆分科会活動 ◆公開講座 健康をあたりまえに。の実現 ベースフードの考 え方 講師:ベースフード株式会社マーケティング担当 永井 隆太氏	分科会 31名 講座 55名
8	11月8日(火) オンライン(Zoom) 明治安田生命保険(相) MYPLAZA 会議室	東京	11月度 月例研究会	◇わいわいタイム ◆分科会活動 ◆公開講座 完成させない社会と空間 講師:株式会社良品計画 空間設計部長 林 高平氏	分科会 27名 講座 62名
9	12月9日(金) オンライン(Zoom) 明治安田生命保険(相) MYPLAZA 会議室	東京	12月度 月例研究会	◆分科会活動 ◆セミ公開講座 ヒーブ協議会の原点を知り、今改めて仕事への想 いを考える 講師:落合 良 氏 元ソニー株式会社 日本ヒーブ協議会特別会員 映画「ベアテの贈りもの」製作委員副代表 映画「ベアテの贈りもの」上映	分科会 32名 講座 52名
10	1月27日(金) オンライン(Zoom) 明治安田生命保険(相) MYPLAZA 会議室	東京	1月度 月例研究会	◆分科会活動 ◆セミ公開講座 いきいき働くためのメンタルヘルス 講師:島田 恭子 氏 一般社団法人ココロバランス研究所 日本カスタマーハラスメント対応協会 東洋大学現代社会総合研究所	分科会 26名 講座 36名

No.	実施日・会場	主催	名称	講演テーマ・講師	出席者数
11	2月28日(火) オンライン(Zoom) OMM(旧:大阪マーチャン ダイズ・マートビル) 明治安田生命保険(相) MYPLAZA 会議室	関西	2月度 月例研究会 (ACAP 西日 本支部合 同)	◆分科会活動 ◆公開講座 ①『お茶のある暮らし』を通じた顧客体験価値の 創造 講師:株式会社一保堂茶舗取締役 狩野 憲一 氏 ②データと事例にみるお客様対応部門のCXイノ ベーション 講師:株式会社リックテレコム 月刊コールセンタージャパン編集長 矢島 竜児 氏	分科会 25名 講座 49名
12	3月14日(火) オンライン(Zoom) 明治安田生命保険(相) MYPLAZA 会議室	東京	3月度 月例研究会	◆分科会活動 活動発表 ◆セミ公開講座 電気自動車の未来とお客様対応～軽自動車初のカー オブザイヤー受賞まで～ 講師:三菱自動車工業株式会社 お客様関連部 担当マネージャー 島田 絵美 氏 (日本ヒーブ協議会理事)	分科会 34名 講座 43名

※ ◇わいわいタイムは任意参加

(3) わいわいタイムの運営

会員交流を推進するため、各自が興味のある話題で気軽に話し合える場(任意参加)を提供

(4) 分科会の運営

毎月の分科会活動では、下記4つの研究テーマに分かれ、異業種交流の特徴を活かした情報交換や議論を積極的に行った。

- ① お客様対応を考える分科会
- ② 調査・生活者関連情報分科会
- ③ 商品・サービス研究分科会
- ④ 月例会企画・運営分科会

3. 組織の活性化を図るグループ

協議会の基盤整備ならびに会員の積極的な活動参画に向けて以下の活動に取り組んだ。

(1) 2022年度(第20回)総会の運営

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、会場と Web 会議サービス(Zoom)を用いたハイブリッド形式で定時社員総会を開催した。なお、会場及びオンライン出席者の声即時に互いに伝わり、一堂に会すると同等に適時的確に意見表明が互いにできることを確認して開催した。

役割		担当
司会	総合司会	簗島ゆう子 森永乳業(株)
議長団	議長	篠 かつり アフラック生命保険(株)
	書記	丸山 麗子 積水化学工業(株)
報告者	2021年度事業報告	2021年度代表理事: 吉村美衣子 損害保険ジャパン(株)
	2021年度決算報告	2021年度会計: 中村尚美 日新製糖(株)
	監事による事業及び会計監査報告	監事: 有富菜穂子 (株)Mizkan Holdings 監事: 林真由美 アサヒビール(株)
	2022年度役員選任	選挙管理委員長: 丹野富美恵 富国生命保険相互会社
	2022年度事業計画	2022年度代表理事: 中村尚美 日新製糖(株)
	2022年度予算計画	2022年度会計: 影田明日香 (株)アンデルセン・パン生活文化研究所

（2）会員の管理と拡大

- ・異業種交流のメリットを活かすため、会員名簿の情報更新を行った。併せて、会員の保有資格や特技等の調査を行い、会員の推薦・講師派遣に向けての会員データ構築を継続した。

（3）会員継続および新規加入への働きかけ

- ・公開講演会への参加者を中心に新規加入等の働きかけを積極的に行った。また、会員継続に向け月例研究会等の場面で会員に対し協議会の活動とメリットを説明した。
- ・会員交代および退会される会員に対し、活動への参加を促すフォローを行った。
- ・賛助会員企業に対して、活動への理解を得て継続を依頼した。

（4）定款並びに定款施行規則の改定

①総会における定款改定の付議の可決

2023 年 3 月 27 日開催の理事会において、2023 年度の総会において、下記内容の定款変更の付議の実施を可決した。

第 3 条の目的に掲げられているヒーブの定義を狭義の消費者関連部門で働く女性に限定しない記載ぶりに修正するとともに、協議会の目的を 40 周年誌で掲げたヒーブのミッションや最近の対外的な発信時の書きぶりを加味した表現および事業内容に修正する。第 8 条の社員についての文言も第 3 条に合わせ変更する。

②定款施行規則の改定

2022 年 8 月 10 日開催の理事会において正会員が退会 10 年以内に再入会する際の入会金を免除する規定を新設した。（（会費） 第 4 条第 1 項(1)）

2023 年 3 月 27 日開催の理事会において、定款改定付議に伴い、該当する定款施行規則の文言を変更した。（（会員の種別および資格） 第 1 条第 1 項）

同じく、2023 年 3 月 27 日の理事会において、現在の役員の組織の現状に合わせ変更した。

具体的には、「企画グループ」および「調査グループ」を削除した。また、「事務局」を組織図から削除した。（（役員の組織） 第 14 条第 1 項）

第 14 条変更に伴い、（運営グループ） 第 16 条から「企画グループ」および「調査グループ」を削除するとともに、「組織の活性化を図るグループ」の活動項目を拡大した。

（5）会員へのガイダンス

協議会に関する会員の理解を深める目的で、5 月度月例研究会のキックオフミーティングにおいて、協議会の概要、活動テーマ、スケジュール等を代表理事より説明した。

（6）理事会だよりの発行

理事会の議題の中からトピックスをまとめ、会員に報告した。

（7）理事・監事選挙

- ・2023 年度役員選出のための選挙管理委員会を発足させ、選挙活動が滞りなく進むよう補佐した。
- ・2022 年度に引き続き Web 投票とし、コストや作業軽減にも貢献した。

【選挙管理委員会】

	支部	氏名	会社名
委員長	東京	丹野 富美恵	富国生命保険（相）
委員	東京	篠 かつり	アフラック生命保険(株)

・選挙の結果、代表理事候補者1名、留任理事候補者7名、新任理事候補者2名、留任監事候補者1名が信任された。

4. 広報グループ

協議会の価値・認知度を高めることを目指し、以下の広報活動に取り組んだ。

(1) 「レポートヒーブ」「What is HEIB?」の作成・更新

下表の通り、機関誌「レポートヒーブ」を作成した。また、「What is HEIB?」の情報(会員情報、組織体制、活動内容など)を更新した。

名称	発行予定年月	内容
レポートヒーブ 81号	2023年4月	当協議会の2022年度の活動内容(分科会、月例会、講演等)を写真・画像とともにわかりやすく紹介
What is HEIB?	2023年4月	当協議会の活動目的・内容や入会案内・会員情報・組織体制等を掲載

(2) ホームページの運営・更新

より効果的かつタイムリーな情報発信を目的に、ホームページを活用して協議会の認知度向上や会員拡大に向けた取り組みを行った。また2023年1月により使いやすいホームページにリニューアルを行った。

(3) 講演会等への講師の派遣

下表の通り、自治体・大学への講演会等へ講師を派遣した。

実施日	主催	講演テーマ	講師
2022年6月23日	関西学院大学	経済学部「経済事情E」 企業と生活者をつなぐ —消費者市民社会と消費者志向経営の実現に向けて—	理事 小林あさひ
2022年8月19日	(一財)大阪府男女共同参画推進財団	女子高生のためのサマースクールガールアップセミナー2022	関西支部長 辻 美智子
2022年8月20日	(一財)大阪府男女共同参画推進財団	女子高生のためのサマースクールガールアップセミナー2022	関西支部会員 元芳晃子
2022年8月23日	大阪府消費生活センター	大学生期における消費者教育推進事業 消費者教育リーダー養成講座 応用講座「消費者教育の基礎理解②企業活動からみる」 企業の消費者教育活動について	関西支部会員 木谷あゆみ
2022年11月26日	大阪府消費生活センター	大阪府消費者教育学生リーダー養成講座 「企業×学生 交流会」	代表理事 中村尚美 関西支部会員 木谷あゆみ
2022年12月11日	大阪府消費生活センター	大阪府消費者教育学生リーダー養成講座 「企業×学生 交流会」	代表理事 中村尚美 関西支部会員 木谷あゆみ
2022年12月5日	神戸学院大学	共通教育「現代の社会(消費者問題)」 企業と生活者をつなぐ —消費者市民社会と消費者志向経営の実現に向けて—	関西支部会員 植村知佐子
2022年12月22日	神戸学院大学	共通教育「現代の社会(消費者とリスク)」 企業と生活者をつなぐ —消費者市民社会と消費者志向経営の実現に向けて—	関西支部会員 木谷あゆみ

(4) プレスリリース等の配信

プレスリリース配信サービスPR Timesを用い、以下の通り同社Webページを通じてニュースリリース等を配信した。同時に、消費者庁記者クラブ、内閣府男女共同参画局を経由して、所属メディアおよび「男女共同参画推進連携会議」参加議員への配信も行い認知の拡大を図った。

配信日	種別	タイトル	PV 数	UU 数	転載 サイト数
2022/4/19	リリース	44 年目を迎えた「日本ヒーブ協議会」、生活者・企業・行政による「共創社会」実現に向け新体制で始動	1,292	1,286	20
2022/7/6	リリース	企業で働く女性達のチャレンジと知見を満載した進化する実践 BOOK『本音で共創する組織(チーム)づくりへの挑戦』を発表、公開講演会開催！	793	792	44
2022/7/6	ストーリー(Web コンテンツ)	新しい価値創造にチャレンジする企業の女性たちが語る『本音で共創する組織(チーム)づくりへの挑戦』(日本ヒーブ協議会)の発表まで	2,236	2,231	0
2022/8/24	リリース	生活者との新しい関係づくりを学ぶ連続公開講演会、「生活者『を』から生活者『と』による価値創造」を開催！	1,148	1,137	47

※PV 数: ページが閲覧された回数、UU 数: ページを訪問したユーザー数

(5) マスコミ等への対応

マスコミ等からの取材・寄稿依頼に対応した。掲載記事は下表の通り。

< 記事掲載【所信表明関連】 >

新聞名・誌名	社名・団体名	掲載日	タイトル
日本消費経済新聞	日本消費経済新聞社	2023 年 1 月 1 日号	「年頭所感」代表理事 中村尚美 関西支部長 辻美智子 九州支部長 難波裕扶子
消費と生活 (No369)	(株)消費と生活社	2023 年 1・2 月号	「年頭所感」代表理事 中村尚美
ニッポン消費者新聞	日本消費者新聞社	2023 年 1 月 1 日号	「年頭所感」代表理事 中村尚美

< 記事掲載【その他】 >

新聞名・誌名	発行者	掲載日	タイトル
ニッポン消費者新聞	日本消費者新聞社	2022 年 5 月 1 日号	日本ヒーブ協議会 今年度活動テーマ決定
消費と生活 (No365)	(株)消費と生活社	2022 年 5・6 月号	日本ヒーブ協議会 総会及び公開講演会
ニッポン消費者新聞	日本消費者新聞社	2022 年 7 月 1 日号	日本ヒーブ協議会 実践BOOK発表
ニッポン消費者新聞	日本消費者新聞社	2022 年 8 月 1 日号	消費者問題はいま 提言二〇二二
消費と生活 (No367)	(株)消費と生活社	2021 年 9・10 月号	日本ヒーブ協議会 公開講演会

5. 調査グループ

「生活者と企業が共に創る新しい関係性」に向けたヒーブ役割の実践力強化に関わる活動について、協議会全体の「ヒーブ Innovation アクション」及び「調査・生活者関連情報分科会」を中心として具体化した。

ヒーブ Next Stage に重要な情報収集・分析・共有やそれを踏まえた会員の共創活動を促進し、ヒーブがめざす北極星実現に繋がるインプット&アウトプットを促進し、45 期からのさらなる実践アウトプットステージへの基盤を創ることができた。

(1) ヒーブ役割②に関するアウトプット促進

先行しているヒーブ役割②「進化する幸せ組織の起点となる」に関して、2020 年度集中インプット及び 2021 年度アウトプットに続き、2022 年度はさらに進化したアウトプットを促進した。

具体的には、2021 年度発行「本音で共創する組織づくりへの挑戦～進化する実践 BOOK#1」について協議会の内外に共有しつつ、その活用実践情報等を踏まえて「本音で共創ステップ チェックシート」を開発。チェックシート（エクセル版含む）及び効果的活用方法を含めたかたちで、進化版「進化する実践 BOOK#2」を発行することができた。本活動は、「調査・生活者関連情報分科会」を中心として推進した。

実施日	内容
5月17日（火）	<全体活動> BOOK#1 に関して会員共有&交流
6月21日（火）	<分科会活動> BOOK#2 開発検討
7月26日（火）	<全体活動> BOOK#1 に関して会員外共有（公開）
8月22日（月）	<分科会活動> BOOK#2 開発検討
10月18日（火）	<分科会活動> BOOK#2 開発検討
11月8日（火）	<分科会活動> BOOK#2 開発検討
12月9日（金）	<分科会活動> BOOK#2 開発検討／<全体活動>BOOK#2 チェックシートβ版の会員共有
1月27日（金）	<分科会活動> BOOK#2 開発検討／<全体活動>BOOK#2 チェックシートβ版活用会員ワークショップ
2月28日（火）	<分科会活動> BOOK#2 開発検討
3月14日（火）	<分科会活動> BOOK#2 開発検討／<全体活動>BOOK#2 進化ポイント等共有（セミ公開）

この他、数度にわたり Zoom で打ち合わせを実施した。

（2）ヒーブ役割①に関する集中インプット促進

ヒーブ役割①「生活者と新しい価値を共に創る」に関して、2022 年度は集中インプットを促進した。

具体的には、ヒーブを取り巻く重要な社会動向及び先進企業実践情報等を踏まえて、「生活者との新しい関係づくりを学ぶ～生活者『を』から生活者『を』による価値創造」というテーマでの3回連続公開講座の企画実施に貢献した。

（3）ヒーブ役割①②集中インプットのポイント集作成

これまでのインプットを踏まえた 45 期からの実践アウトプットステージへの基盤として、ヒーブ役割①②集中インプットのポイントをまとめた。

具体的には、「ヒーブ実践力アップ(ヒーブ Innovation シリーズ)のポイント集」として、「ヒーブ Innovation シリーズ シーズン1 (2020 年7月～2021 年3月 全4回)」「ヒーブ Innovation シリーズ シーズン2 (2022 年9月～2022 年11月 全3回)」の2つを、会員がいつでもだれでも再確認してアクションできるようなたちで作成した。

【支部活動】

1. 関西支部

新型コロナウイルスによる影響が3年目となる中、今後の支部運営について再検討をおこない、会員のニーズが高い対面による月例会の開催について、感染症対策を十分におこなったうえで前向きに進める等、運営の工夫に努めた。そうした中、Web 講演会が中心だった昨年度に比べ、会場には多数の会員が足を運び、情報交換やディスカッションが促進された。9月は、動物学の視点から事例に沿って社会における男女の役割について講演いただき、ジェンダーギャップを埋めていくための多様な可能性があることを学んだ。2月にはCXをテーマに、老舗企業による顧客価値体験の創造とコールセンター部門におけるCXイノベーション、2つの講話から、ともに生活者視点で顧客ニーズに対応し、さらに価値を生み出す経営について、実話をもとにより一層の理解を深めた。

（1）月例研究会活動

① 月例研究会（詳細については、2. 研究会推進グループ(2)月例研究会の運営を参照)

・ヒーブとして求められる資質(現状把握力・問題発見力・判断力、問題解決力・プレゼンテーション力等)と

能力の向上を目指し、多様なテーマで講演会等を実施した。

- ・ACAP 西日本支部との合同例会を2回開催し、上司・同僚や他団体から参加いただき、協議会への理解を深めていただくとともに、交流の機会を創出した。
- ・協議会活動を通じて、会員一人ひとりがさらなるレベルアップ・スキルアップを図るため、月例研究会では、参加者同士がディスカッションできる機会を設けた。

② 運営制度

感染対策を十分に行い、オフラインも取り入れた運営に積極的に取り組んだ。

③ 月例研究会の記録

開催レポートやアンケート結果等を会員に報告し、研究会活動で得た情報の共有・定着を図った。

(2) 広報活動

他団体・行政・大学との交流や関連団体等と協働しながら当協議会の情報発信や消費者教育活動等を行った。

(3) 組織活動

① ガイダンスミーティング

- ・新入会員を対象にガイダンスミーティングを実施し、当協議会についての理解を深めた。

② 振り返り

- ・今年度の活動や運営について良かった点と課題を話し合い、会員の負担軽減に向けた改善を行った。

(4) 行政・関連団体の主催する行事等への参画、講演会への講師派遣

行政の委員会・会議、関連団体の会合への参加、自治体・大学の講演会等へ講師を派遣した。

詳細については、【グループ活動】 1. 企画グループ(3)、4. 広報グループ(3)を参照。

(5) 今後の課題

- ① 運営において、会員の負担軽減と会員所属企業へのより効果的な成果のフィードバックを目的に、レポートを活用する。
- ② 月例研究会の開催日は年度初めに年間計画を策定し、参加率の向上を目指す。
- ③ 支部 LINE の活用で、会員を巻き込みながら、会員同士のネットワークの拡充、相互研鑽の強化を図る。
- ④ 関連団体と連携し、支部の会員企業を増加させる。
- ⑤ 支部長による賛助会員へのアプローチ強化。
- ⑥ 次年度以降の支部運営について、理事会において早急に検討をおこなう。

【関西支部理事】

支部長 辻 美智子 第一生命保険(株)

2. 九州支部

今年度の活動テーマにもとづき、ヒーブ視点と九州支部の強みを活かした講演会をオンラインで開催し、会員の資質向上と九州支部の知名度向上に努めた。いずれも今の時代に即した内容、これから必要な知識や情報、スキルであり、会員のみならず会員企業の上司同僚や一般参加の方々より高い評価をいただくことができた。

運営は全てオンラインであったが、参加機会の創出により東京・関西との連携と、九州支部会員相互のコミ

コミュニケーションを深め、活力ある組織づくりが実現できた。

<活動実績>

(1) 月例研究会活動

① 月例研究会（詳細については、2. 研究会推進グループ(2)月例研究会の運営を参照）

- ・東京・関西の月例研究会のオンライン（Zoom）での受講が可能となり、支部会員も積極的に参加できる環境となった。これにより、学びの機会を得ただけでなく東京や関西の会員との交流が深まった。
- ・最新の学びや組織を超えた繋がりをオンラインにより触れることで、仕事の幅と可能性を広げることが出来た。
- ・九州支部担当となる8月度月例研究会において、当協議会の「存在意義やあり方」をあらためて考える講演会を開催。新しい時代を生きる当協議会と会員の「存在意義やあり方」について会員それぞれが再確認できた。

② 運営制度

新型コロナウイルス感染症拡大にともない、全て Web 会議サービス（Zoom）開催を中心とした運営を継続した。

(2) 組織活動

Web 会議サービス（Zoom）を活用し、支部会員全員で適時運営委員会を開催し、知恵を出し合うことで会員同士の結束を図った、デジタルコミュニケーションにチャレンジすることで、会員それぞれの事業活動へ活かすことに貢献した。

(3) 今後の課題

- ① 九州支部の活動ならびに組織運営が持続可能な活動となる
- ② 会員各々の役割に応じた、一人ひとりが輝ける場を意識した活動
- ③ 社会の潮流や兆しを分析し、会員企業のみならず社会が求める公開講座・月例研究会の実施
- ④ 会員拡大

【九州支部理事】

支部長 難波裕扶子 （株）シンク・オブ・アザーズ

II. 組織

2022 年度は、以下の役員および運営グループ等にて運営を行い、理事会を実施し具体的な活動に取り組んだ。

【役員】

代表理事	中村 尚美	日新製糖株式会社
副代表理事	鈴木 聖子	明治安田生命保険相互会社
副代表理事	影田 明日香	株式会社アンデルセン・パン生活文化研究所
理事	小林 あさひ	日本生命保険相互会社
理事	島田 絵美	三菱自動車工業株式会社
理事	松谷 陽子	株式会社ニッポン
理事	水野 映子	株式会社第一生命経済研究所
理事	脇田 真知	サンスター株式会社
関西支部		
支部長	辻 美智子	第一生命保険株式会社
九州支部		
支部長	難波 裕扶子	株式会社シンク・オブ・アザーズ
副支部長	臼木 淑子	株式会社キッズ・プランニング
副支部長	花田 泉	クリエイティブオフィス ビーンズ
監事	片岡 まり	一般社団法人株主と会社と社会の和
監事	林 真由美	アサヒビール株式会社

【運営グループ担当理事】

企画グループ	リーダー	中村 尚美
研究会推進グループ	リーダー	鈴木 聖子
組織の活性化を図るグループ	リーダー	小林 あさひ
調査グループ	リーダー	脇田 真知
広報グループ	リーダー	松谷 陽子
関西支部	支部長	辻 美智子
九州支部	支部長	難波 裕扶子

【会員数】2023 年 3 月 31 日現在

正会員	56 名
うち関西支部	7 名
うち九州支部	5 名
休会	2 名
個人会員	5 名
賛助会員(法人)企業数	25 社
賛助会員(個人)	8 名
特別会員	24 名

【事務局】

〒151-0053
 東京都渋谷区代々木 2 丁目 30 番 4 号 C-002
 TEL03-6869-0428
 URL <http://www.heib.gr.jp>
 E-mail:heib-jimukyoku@heib.gr.jp
 志保沢久子
 助川文緒

2022年度 収支決算報告書

自 2022年 4月 1日
至 2023年 3月 31日

一般社団法人 日本ヒーブ協議会

1. 一般会計

<収入の部>

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
前 期 繰 越 金	913,891	913,891	0
会 費			
正 会 員	3,720,000	3,460,000	260,000
個 人 会 員	72,000	90,000	△ 18,000
小 計	3,792,000	3,550,000	242,000
入 会 金			
正 会 員	90,000	0	90,000
個 人 会 員	0	5,000	△ 5,000
小 計	90,000	5,000	85,000
賛 助 会 費			
法 人	1,250,000	1,260,000	△ 10,000
個 人	65,000	55,000	10,000
小 計	1,315,000	1,315,000	0
雑 収 入			
預 貯 金 利 息	0	110	△ 110
特 別 例 会 費	50,000	10,693	39,307
そ の 他	153,000	195,630	△ 42,630
小 計	203,000	206,433	△ 3,433
収 入 合 計	5,400,000	5,076,433	323,567
総 合 計	6,313,891	5,990,324	323,567

<支出の部>

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
活 動 費 (東京・関西・九州合計)	1,916,500	1,225,597	690,903
東京	1,761,500	1,178,088	583,412
企画活動	85,500	17,920	67,580
研究会推進活動	645,000	486,223	158,777
組織の活性化を図る活動	338,000	5,500	332,500
広報活動	643,000	551,845	91,155
調査活動	50,000	116,600	△ 66,600
関西	80,000	36,300	43,700
九州	75,000	11,209	63,791
運 営 費	3,828,000	3,554,014	273,986
地代家賃	580,800	563,200	17,600
人件費	1,850,000	2,036,904	△ 186,904
税理士報酬	367,200	367,200	0
運賃・通信費	300,000	218,779	81,221
交通費	340,000	115,305	224,695
会議費	10,000	0	10,000
消耗品費	150,000	82,723	67,277
印刷費	50,000	44,914	5,086
支払手数料	60,000	36,883	23,117
交際費	10,000	0	10,000
租税公課	100,000	87,156	12,844
雑費	10,000	950	9,050
支 出 合 計	5,744,500	4,779,611	964,889
当 期 剰 余 金	569,391	1,210,713	△ 641,322
総 合 計	6,313,891	5,990,324	323,567

2. 特別会計

<ホームページ構築積立金>

	積 立 額	支 出 額	残 高
前 期 繰 越			200,000
積 立 額	800,000		1,000,000
支 出 額		245,878	754,122
残 高			754,122

貸借対照表

2023年3月31日現在

一般社団法人 日本ヒーブ協議会

(単位：円)

資産の部		負債及び剰余金の部	
現金	32,342	預り金	36,022
普通預金	11,480,570	未払費用	0
前払費用	0	未払金	0
電話加入権	72,800	前受金	418,000
保証金	35,000	基本金	6,601,855
		調査費積立金	200,000
		周年行事積立金	2,400,000
		ホームページ構築積立金	754,122
		前期繰越正味財産額	913,891
		正味財産増加額	296,822
合計	11,620,712	合計	11,620,712

正味財産増減計算書(案)

(2022年4月1日～2023年3月31日)

(単位:円)

科 目	金 額
I 増加の部	
1. 資産増加額	
調査費積立金取り崩し	200,000
増加額合計	200,000
II 減少の部	
1. 資産減少額	
周年記念事業費	-
ホームページ構築費	-
減少額合計	
当期正味財産増加額	296,822
前期繰越正味財産額	913,891
合計額	1,410,713

財産目録

2023年3月31日現在

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金手許有高	32,342		
普通預金 三菱UFJ銀行原宿支店	11,057,913		
" " (関西支部)	148,834	前受金翌期会費	418,000
" " (九州支部)	273,823	預り金源泉所得税	36,022
流動資産合計	11,512,912	流動負債合計	454,022
2. 固定資産			
保証金 Y. C. S	35,000		
電話加入権	72,800		
固定資産合計	107,800		
資 産 合 計	11,620,712	負 債 合 計	454,022

監査報告書

2022年度の会務並びに会計につき監査を行った結果、
下記のとおり報告いたします。

記

1. 会務は滞りなく運営され、予算の執行状況は適正である。
2. 現金、預金については適正、確実に管理保管されている。
3. 帳簿および証拠書類は正確に記入、保存されている。

以 上

2023年4月6日

一般社団法人 日本ヒーブ協議会

監事

小野 真由美



監事

片岡 まり

